

## 白南地区に「放課後児童クラブ＋児童館」複合の 子育て総合支援型学校が必要な理由

白南地区コミ協連絡会

本資料は、南区および白南地区が抱える子育て環境の課題を踏まえ、学校再編を契機として「放課後児童クラブ」と「児童館機能」を統合した 子育て総合支援型学校 を整備する必要性を示すものであります。

### 1. 白南地区の子育て環境が抱える主要課題

#### (1) 子どもの数が市内で最少クラスだが、面積は広い

- 広域・車社会であり、子どもの移動負担が他区より大きい。
- 点在する生活圏により、子どもの居場所づくりが困難。
- 学校・児童館・放課後児童クラブが離れていると、移動安全性が課題となる。

#### (2) 地域・学校で「他の児童生徒との接触機会が少ない」

- 小規模集落が多く、異なる学年・集団との関わりが生まれにくい。
- 社会性の育成、対人関係経験が限定され、成長機会に格差が生じる。

#### (3) 保護者の共働き率が高く、母親の負担が大きい

- 家事・育児・地域活動の負担が母親に集中。
- 保護者が地域活動や子ども支援に十分に関われないため、行政的な支援装置の必要性が高い地域特性。

#### (4) 三世同居が多いが、育児方針の不一致がトラブル要因に

- 祖父母と保護者の価値観の違いが、子どもの行動不安定につながるケースが増加。
- 家庭内だけでは解決しきれず、公的な相談・支援拠点の必要性が高い。

#### (5) 同学年人数が少なく、友人関係固定化が進みやすい

- 閉じた人間関係により、トラブルが深刻化しやすい。
- 失敗経験や対立調整の機会が少なく、心理的な脆弱性が育ちやすい。

#### (6) 不登校傾向児童生徒が 20 名に上る

- 小規模校でも高い水準。
- 背景には、対人ストレス耐性、家庭内葛藤、居場所不足などの複合要因。

### 2. 課題の本質：子どもの「居場所の選択肢不足」と「成長機会の不足」

上記の課題は、単独ではなく 以下の二つの構造的要因 に整理される。

#### (1) 子どもの多様な居場所が絶対的に不足している

#### (2) 社会性を育てる「異年齢・多集団との出会い」が圧倒的に不足

- 小規模校 × 広域地域 × 保護者の多忙 により、成長環境が限定される。
- 結果として、対立・葛藤を経験する場が少なく、登校不安につながる。

この二つの要因に同時に応えるためには、放課後機能と児童館機能を一体化した総合的な子ども支援拠点が不可欠である。

### 3. 「子育て総合支援型学校」整備によって解決できること

以下は、児童館機能と放課後児童クラブを校地内で複合化した際に得られる効果である。

#### (1) 安全でシームレスな子どもの動線確保

- 学校 → 学童 → 児童館 が同じ敷地内で完結。
- 低学年の移動リスクを大幅に軽減。
- 保護者の安心感向上。

#### (2) 子どもの「複数の居場所」を確保し、心理的安全性を高める

- 登校に不安がある子ども、学童・児童館が「学校外の居場所」として機能し、不登校予防に寄与。
- 同学年に限らない交流機会が増え、社会性が自然に育まれる。

#### (3) 共働き世帯の負担軽減

- 放課後の預かり、自由来館、相談支援が一体化。
- 保護者が複数の拠点に子どもを送迎する必要がなくなる。
- 育児相談や支援につながりやすい。

#### (4) 家庭内の育児方針不一致によるストレスを軽減

- 児童館機能に含まれる家庭支援・相談機能を学校と連携して提供。
- 祖父母と保護者が共に参加できる講座などの実施も容易。

#### (5) 小規模校の弱点を補う「異年齢・多集団交流の場」を形成

- 小規模学校では得にくい多様な関係性を、放課後の場で補完。
- 失敗経験や対立を経て成長する機会を自然に増やすことができる。

#### (6) 不登校対策として効果が高い

- 学校とは違う空気感の中で、子どもが日常的に大人や仲間とつながれる。
- 児童館の自由度 × 学童の安心感 の相乗効果は、不登校の改善に実績がある。

### 4. 今こそ白南地区で「複合施設」を整備すべき理由

#### (1) 学校再編という“数十年に一度”の機会到来

- 校地が一本化されるタイミングは、施設複合化の最適期。
- 後追い整備では大きなコストが発生するため、開校と同時の整備が最も効率的。

#### (2) 既に白南中学校敷地内に学童設置の方向性が見えている

- 児童館機能を付加することは構造的に実現可能。
- 既存の白南中学校舎を活用することで、コスト抑制も見込める。

#### (3) 南区独自の子育て課題（広域性・小規模性・家庭負担）に対応できる唯一の策

- 他区と同じモデルでは機能しない地域特性。
- 「学校＋児童館＋学童」複合は、南区の実情に最適化されたモデル である。

白南地区は、子どもが少なく、家庭や地域の負担が大きく、心理的に不安定な子どもも多い地域です。だからこそ、学校再編を単なる校舎統合で終わらせるのではなく、地域の子育て基盤を再構築する転換点とする必要があると考えています。

また、学校・放課後児童クラブ・児童館を複合した「子育て総合支援型学校」の整備こそ、白南地区の子ども・家庭・地域を持続可能にする最も効果的な投資であると考えています。